

【HBs抗原陽性妊婦向パンフレット】

B型肝炎の母子感染を防止するために

- この用紙は、あなたが出産を予定している病院や診療所、お子さんがワクチンやグロブリンの投与を受ける病院や診療所に必ず提出してください。
- 検査や予防措置を受けた場合この用紙に記録してもらいましょう。
- この用紙は、母子健康手帳などにはさんでおきましょう。

◎ 母親と、生まれる子どもについての検査・予防措置

このたびの検査により、あなたはB型肝炎ウイルスを持っているという結果になりました。以下のことをよく読み、出産を予定している病、診療所で必要な検査やグロブリン、B型肝炎ワクチンの投与を受け、B型肝炎の母子感染を防止するようにつとめてください。

1 B型肝炎の母子感染とは

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスによっておきるもので、主に血液によって感染します。我が国では100人に1-2人の割合で、からだの中にB型肝炎ウイルスを持っている人がいます。このような人が妊娠した場合、妊娠時や出産時に母親の血液が子どもにふれることによってウイルスが感染することがあります。母親がウイルスを多く持っている場合、生まれた子どもにウイルスが感染すると、からだのなかに長い間ウイルスを持つようになり(キャリア)、将来慢性肝炎や肝硬変、肝がんになることがあります。また、ウイルスの少ない母親から生まれた場合でも、出生後に子どもが急性肝炎にかかることがあります。このため、赤ちゃんが生まれたら、ただちにB型肝炎ウイルスの感染を防止しておくことが大切です。

2 B型肝炎の母子感染を防止するために

(1) 母子感染の防止方法

B型肝炎の母子感染を防止するためには、B型肝炎ウイルスを持っている妊婦から出生した子どもに対して、B型肝炎に対する抗体をたくさん含んだグロブリン(HBIG)やB型肝炎ワクチンを投与することが必要です。感染防止の方法は表のようなスケジュールにしたがって行います。

(2) あなた自身の検査について

B型肝炎ウイルスが子どもに感染しやすい程度を調べるための検査(HBe抗原検査)を必ず受けましょう。母親がHBe抗原陽性のとき子どもへのウイルスの感染率は100%で、このうちの85-90%は、HBキャリア(からだの中に長い間ウイルスをもつ状態)となります。母親がHBe抗原陰性のときは、子どもへの感染率は10%程度で、キャリア化することはまずありませんが、急性肝炎や劇症肝炎をおこすことがあります。

3 あなた自身の健康のために

あなたは、B型肝炎のウイルスを持っているのですが、肝炎の症状や肝機能異常が続かないかぎり健康者と同様に過ごすことができます。しかし、健康状態をたもつために、定期的な健康診断や検査を受けることをおすすめします。かかりつけの医師に相談していただければよいのですが、肝臓病の専門医のいる医療機関もあります。